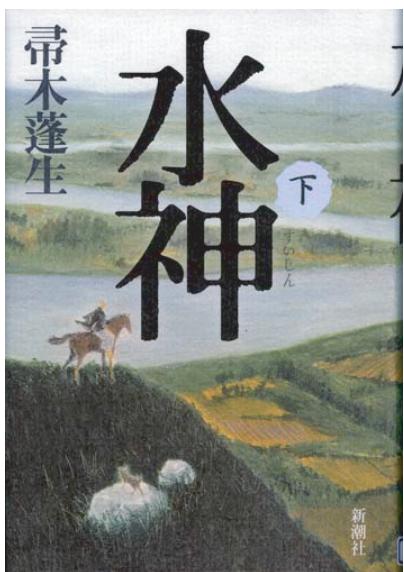


読書案内コーナー

今回「図書館」を紹介しましたのを契機に「読書案内コーナー」も設置しました。今回は3冊。



帚木蓬生（はせぎほうせい）著 『水神』上・下（新潮社 2009）

江戸時代、悪条件の農地で苦しみながらも懸命に生きるけなげな農民。農民を思いやる庄屋らは筑後川の水を引く大事業を敢行しようとする。その実現に向け献身的に働く奉行(役人)。

ここ数年で最も感動した小説だ。小説（フィクション）といっても、綿密な取材に基づいているので三百年前の農民の生活が深く理解できる。公共事業とは本来このように人々のためにあるのだ。あとで主人公は実在したモデルがいた歴史小説だと知ってさらに大きな衝撃を受けた。

これはすごい小説だ。政治家・公務員に特に読んでもらいたい。本当は現代の全ての人に読んでもらいたい。とにかくお勧め本である。

もちろん島原図書館で借りて読める。

岩崎夏海（いわさきなつみ）著 『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』

（ダイヤモンド社 2009）

大ベストセラーとなって『もしドラ』の愛称まで付いた。

有明漁協問題で相談をした税理士さんが組織や人間関係のことを考えるためにドラッカーを紹介してくれて、あわせて『もしドラ』から入るといいよ、と。

なかなか考えさせられる、感動の爽やか青春小説だ。ひたむきな主人公が、一つひとつの問題を解決しながら、選手は最大限の力を発揮し、甲子園が見えてくる。

読み終えて税理士さんに報告した。「一番大切なものは『真摯（しんし）さ』ですね。」と。にっこりなさった。

これも島原図書館で借りて読める。順番待ちかも？



河村たかし（かわむらたかし）著
『名古屋発どえりやあ革命！』（KKベストセラーズ 2011）

大阪の橋下知事、阿久根の竹原市長、そして名古屋の河村市長の問い合わせは貴重だ。残念ながらテレビも新聞も、全国で起きている議会不信「議会ってな～に？」の問い合わせに答えていない。

面白おかしく報道し、一過性の特異現象扱いにしようとしているようだ。ところがそこには普遍的な（全国共通の）どうしようもない議会の実態がある。マスコミを含め権力者たちにとって「議会」は寝ていたが都合がいいのだろう。

この本に分かりやすく政治のしくみが書いてある。世界標準で見た時、日本の政治がどれくらい異常であるかがよく分かる。

島原図書館では県立図書館から取り寄してくれます。でも松坂の場合、この本については購入しました。